

# 寅さん歩 その22

## 東京2020 聖火リレー-13

### 青森県・北海道—1



写真右上は東京2020オリンピックの聖火リレーのトーチを掲げる平野寅次郎こと平野武宏です。全国のウォーキング大会を映画「男はつらいよ」の寅さんのように歩き回ったので妻の友人から「平野寅次郎」と命名され、ペンネームとしています。右上の写真は都庁でのトーチ公開時に撮影しました。パラリンピックのトーチも色違いであります。

東京2020大会の聖火は2020年3月26日に福島県をスタートし、移動日を含む121日をかけて47都道府県を回り、7月24日の開会式会場に到着します。

なお、2019年11月30日に完成した「新国立競技場」は2019年12月15日の竣工式を終え、「国立競技場」と呼ばれます。

寅次郎、八柳修之さん作成の「バーチャルウォークで沖縄から新国立競技場へ聖火を運ぶ（仮想コース）」を行い、通過した都道府県の寅次郎のウォークの思い出と映画「男はつらいよ」で寅さんの恋の記録をお話ししました。

映画「男はつらいよ」は第1作の公開[1969年(昭和44年)8月27日]から50周年となり、記念して2019年(令和元年)12月27日に第50作「男はつらいよ お帰り寅さん」が公開されました。寅さん役の渥美清さんは1996年(平成8年)に亡くなっていますが、今までの作品の寅さんが技術を駆使して登場します。

「寅さん歩」も映画の50周年を祝って一足早く全国の聖火リレーのコースを紹介しながら、前回のバーチャルウォークで通過しなかった道県での寅次郎のウォークの思い出と寅さんの恋をお話したいと思います。各県名の脇の月日は実際に聖火リレーが行われる月日で、コースはスタートとゴールの予定地です。なお、2019年12月17日聖火リレーの詳細が発表されました。

〔青森県〕 2020年6月11日～12日

聖火リレーコースは6月11日 弘前市～青森市、12日 むつ市～八戸市です。

寅次郎、2002年(平成14年)6月「第4回津軽路ロマンツーデーマーチ」で

津軽路を歩いています。津軽富士と呼ばれる秀峰岩木山を仰ぎながら、りんご園、田園地帯に囲まれた新緑の津軽平野の歴史と文化、温かい人情に触れながら、津軽路のロマンを堪能した「あずましい」（東北弁で快適な意味）ウォークでした。東京駅から夜行高速バスで弘前へ早朝に到着しました

大会1日目は岩木20キロコースを選択、バスで岩木山に一番近い岩木町に移動してスタート、弘前会場のゴールを目指しました。残雪の残る岩木山を見ながら世界一の桜並木を下りました。途中には津軽藩の史跡もありました。給水ポイントでの100%りんごジュース、昼食のたけのこ汁、ゴール手前の岩木川畔のアイスキャンデーの味は格別でした。



2日目は黒石30キロコースを選択。東北の温泉に泊まりたくて、黒石温泉郷落合温泉に宿を取り、新緑の中の露天風呂で疲れを癒しました。宿から車で送ってもらったスタート地点の黒石市の山奥のダム「紅の湖」から山間を歩き、尾上町、田舎館町を通り、黒石コース会場のゴールを目指しました。

山はアカシアの花で白くなっていました。途中には津軽こけし館、お城のような田舎館村役場（写真右）、弥生式文化の史跡がありました。弘前城址が主会場でしたが、2市2町1村がコースを受け持ち、地元の参加者も多く、町を挙げてのウォーキング大会です。



保育園の先生7人組と一緒に歩きました。りんごが実る時期にまた歩いてみたい地です。帰りは青森空港から1時間の空の旅で羽田着です。

2009年（平成21年）6月青森を訪問しています。「ひろば」平成21年10月「寅次郎の旅（青森県三内丸山遺跡編）」をご参照ください。

映画の寅さん、1971年（昭和46年）4月公開の第7作「男はつらいよ 奮闘編」で鱒ヶ沢に現れています。寅さん歩「バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へー16」を参照ください。

また、1975年（昭和50年）8月公開の第15作「男はつらいよ 寅次郎相合い傘」で青森に現れています。主舞台が北海道なので、聖火リレー 北海道ー1をご参照ください。

聖火は北海道へ引き継がれます。

## 〔北海道一〕 2020年6月14日～15日

聖火リレーコースは6月14日 函館市～白老町、15日 苫小牧市～札幌市です。

寅次郎、1999年（平成11年）「第12回でっかいどうオホーツクマーチ」及び2002年（平成14年）「第15回」で北見・網走を訪れています。

玉ねぎ畑を横目に見て、どこまでも続くまっすぐな一本道を歩く北の大地のウォークです。またオホーツクの海を見ながら海辺には原生花園、反対側の草原をサラブレッドが駆け抜ける風景を見ながら歩くのはまさに「でっかいどう」でした。網走のコースでは網走刑務所は門前まででしたが、網走刑務所博物館（写真右）は大会参加者の入場は無料で、しっかりと監獄内を見学してきました。



前日のせっかくウォークでは丹頂鶴の棲む釧路湿原を歩きました。旧千円札の裏面は釧路湿原の鶴のつがいで真ん中は卵のイメージが印刷されていると学びました。摩周湖、屈斜路湖、美幌峠は高校の修学旅行以来の観光でした。

映画の寅さん、北海道には8回登場しています。網走で歌姫リリーと出会い、その後、函館で再会する思い出の地です。

1973年（昭和48年）8月公開の第11作「男はつらいよ 寅次郎忘れな草」で

父親の法事をめっちゃめっちゃにして柴又を出た寅さん、旅先の網走でキャバレー回りの女性歌手リリー

（浅丘ルリ子）と知り合い、身の上話をするうちに二人は相通ずるものを感じていきます。放浪の身の切なさを語り合い、寅さんはテキヤをやめ、農家で働くことを決意しますが、3日ともたずダウン、迎えに来た妹さくらと柴又に戻ります。そこへ訪ねてきたリリーに恋心を抱きます。男勝りのリリーも寅さんやとらやの家庭の味に満更でもありませんが、酔って帰って来たリリーに真面目に対応した寅さん、「何も聞いてくれない」とらやを出て行きます。リリーのアパートの部屋を見つけた寅さん、誰もいない寂しい部屋を見て、また旅に出ます。その後、リリーは歌手をやめ、結婚して寿司屋のおかみさんになります。柴又を訪ねたリリーの言葉は「私は今の主人より寅さんの方が好きだった」でリリーの初恋の人は寅さんだったので



1975年（昭50年）8月公開の第15作「男はつらいよ 寅次郎相合い傘」で青森から函館、札幌、長万部、小樽に登場しています。

堅気の商売は向かないと、寿司職人と離婚したリリー（浅丘ルリ子）がとらやを訪ねます。寅さん、青森で知り合った自由を求めて家出した中年男（パパさん）と函館のラーメン屋にいて、旅に出たリリーと再会。三人で札幌・小樽の旅へ。パパさんの恋愛論をめぐり、リリーと喧嘩別れして柴又に帰り、反省する寅さん。リリーも柴又に来て抱き合い、うれしそうな二人ですが寅さんは歌姫に戻ったリリーの職場環境に嘆きます。パパさんも家に戻り、お礼にメロンを持って柴又へ。寅さんの分を切り忘れたところに、帰って来た寅さん、大声で怒ります。これを聞いていたリリーの寅さんを叱るタンカが見事で小気味良いです。家を出て行ったリリーを番傘を持って駅まで迎えに行き、相合い傘で帰って来る二人を見て、さくら「兄と結婚してくれますか？」と聞くと、リリー「いいわよ」と言います。でも寅さんは「冗談だよ」と取り合わず、目の前の幸せをつかみ損ねた寅さんで、本当に残念なことでした。



「リリーのような頭のいい気性のしっかりとした女とは幸せになれない。同じ渡り鳥、しばらく家で休んで、また羽ばたいて青い空へ行くのさ」、「幸せが目の前に来ると俺はわしづかみに出来ないんだ」との寅さんの言葉が寅次郎の心に残りました。

今回は 東京の博物館めぐりー2 です。

平野 寅次郎 拝